

日本学術会議 心理学・教育学委員会 心理教育プログラム検討分科会（第24期・第2回）
議事要旨

日時 平成30年8月10日（日）16:45-18:45

（16:45-18:30は 社会のための心理学分科会との合同会議）

場所 東京大学大学院教育学研究科 第1会議室

出席：遠藤利彦、阿部恒之、長田久雄、楠見孝、桑野園子、菅原ますみ、鈴木伸一、外山みどり、
中島祥好、箱田裕司、宮谷真人

欠席：坂本真士

議事

- (1) 大学における心理学教育の入口と出口に基づく高校及び大学の心理学教育の方向性
（社会のための心理学分科会と合同）

菅原委員、遠藤委員、村田委員による報告とそれに基づく討論を行った。

- ① 菅原委員の報告では、2017年度に告示された新学習指導要領（2022年度より適用）により、高校公民科の「倫理」の中に、個性、感情、認知、発達などを中心とする心理学の内容が導入される予定である旨が詳細に説明され、今後、教科書作成に資する適切なコンテンツの提供等が必要であることが指摘された。
- ② 遠藤委員の報告では、大学入学前に受験生・高校生が情報を得る手段である、予備校ウェブサイト、大学案内、受験雑誌等の内容を通覧した結果、基礎心理学分野に関する記述がかなりの比重を占め、それほど的外れなものは見られないが、進路についての記述は臨床関係に偏っていること、公認心理師については触れられていないものが多いことなどが指摘された。
- ③ 村田委員の報告では、心理学教育の入口に関しては、他学部の学生も含めての入門教育・共通教育の充実が必要であることが指摘され、出口問題に関しては、特に大学院修了後の進路として、経営学、脳神経科学、工学系など心理学以外の分野への進出の可能性も考慮すべきであることが示唆された。

- (2) 課題の整理と今後の活動方針について

○楠見委員長より、本分科会の概要、課題、事業計画、期待される効果等をまとめた概略図が示され、承認された。

○今後の方針としては、公認心理師養成カリキュラムに関する問題と、高校における心理学教育の支援のそれぞれを検討する2つのワーキング・グループを設け、12名の委員がそのどちらか（または両方）に所属して活動することが委員長より提案され、了承された。

- (3) 次回の予定

○次回分科会は、本年10月～11月頃に、健康・医療と心理学分科会と合同で開催される予定。

- (4) 前回議事要旨の確認

以上